

ご存知でしたか。「北朝鮮の爆発はまだ『核』実験とは確認されていない。」

25日に北朝鮮が行ったと言う「核」実験、もうそういう前提で、安保理決議などの動きが始まっていますが、純技術的にはこれはまだ「核」実験とは確認されていません。地震波の分析から自然地震ではなく、人工的な爆発事象であるというところまでは結論が出ていますが、核爆発であるとの確認は、今後、放射性核種（ゼノンなどの希ガスまたは微粒子）の検出により最終的に確認される必要があります。マグニチュード4.5を越えるような人工爆発を核爆発以外で発生させるのは現在の北朝鮮の技術ではできないので、核爆発に間違いはないとは言えますが、今でも専門家の間では小規模爆発による地震誘発説などが流れています。（これまでの事象の分析については、軍縮・不拡散促進センターのホームページ(http://www.cpdnp.jp/pdf/5月25日の北朝鮮における事象に関する地震波のとりあえずの解析結果_軍縮センター.pdf)をご覧ください。)

放射性の希ガスや微粒子は風に乗って流れてきてまず近隣国の監視ステーション（CTBT条約に基づき設置）で探知されます。日本では高崎と沖縄に施設があります。今週末頃に検知される可能性があります。空気は拡散・攪乱するので、とても無理と考えるかもしれませんが、地球を取り巻くほどの規模になるとそう簡単に攪乱はせず、前回の実験ではカナダ北部のイエローナイフでゼノン・ガスが検知され、コンピューター計算で核実験の時期に北朝鮮方面で発生したものであることが確認されました。

目立たない存在ですが、CTBT暫定事務局の国際監視網の役割が、この機会に認識され、条約の批准・発効促進に役立ってほしいものです。

日本国際問題研究所
軍縮・不拡散促進センター所長
阿部信泰
2009年5月29日